



「Epic 5」の背面。入力はバランスのXLR端子とアンバランスのRCAピンの両方を装備。スタンバイ・スイッチやHF-TRIM / LF-TRIMなども備える



底面に6.25インチのパスシブ・ラジエーターを搭載しているのは「Epic 5」の大きな特徴。パスシブ・ラジエーターを含むすべてのドライバーは、自社開発のアルミニウム製



専用ケースが付属するのもポイント。いろいろな現場に持ち運んで作業する人は重宝するだろう

お誘いいただいたのがきっかけです。それで興味があったので、ウチの作家を何人か連れて代理店のデモ・ルームに試聴しに行ったんですよ。

それで聴かせてもらったのですが、コンパクトなのにローが凄く出ることに驚きました。これはラージの音がするスピーカーだなど。キックとベースの関係性がよく分かって、懸念だったスーパー・ローもしっかり確認できる。こういう音って、「Barefoot Sound」や「Musikelectronic Geithain」といったメーカーの大きなスピーカーを大音量で鳴らさないと出ないと思っていたので、これは凄いなと思いましたね。音

量をそれほど出さなくても、ローがしっかり見えるんです。

ローが出るスピーカーって、逆に高域が気になるというか、バランスが悪く感じるものもあつたりするんですけど、「Epic 5」は上もかなり伸びている。歌録りで重要な中域の分解能も十分に、全体にリアルに鳴っているということが実感できたので、試聴しに行ったその場で導入を決めてしまいました。とにかくこのサイズで、ローをリアルに聴けるというのは画期的なことだと思います。

**PS セッティングはどのようになっていますか？**

**浅田** 「RME Fireface UFX」から直接繋ぎ、「Output」の「Platoform」に載せて使っています。ボリュームは2〜3時くらいで、背面のEQは高域/低域ともにフラットですね。スウィート・スポットはそれほど広いスピーカーではないので、設置位置や角度などは慎重にセッティングした方がいいと思います。

**PS 数ヶ月メイン・スピーカーとして使用されて、率直な感想はいかがですか？**

**浅田** 本当にローがよく見えるので、凄いスピーカーだなと思います。底面にアルミニウム製のパスシブ・ラジエーターが備わっているんですが、ぼくはパスシブ・ラジエーターってあまり好きではなかったんですよ。ローが少し遅れて聴こえてしまうのが気になって、例えば同じタイミングで4つ打ちのキックとベースを鳴らしたときに、キックのアタックが目立って聴こえてしまうので……。しかしこの「Epic 5」は、そういう遅れはまったく感じない。おそらくはこの変わった形状で、低域と中高域の耳への到達時間を揃えているんでしょうね。低域が遅れて聴こえるというパスシブ・ラジエーターへの先入観が吹っ飛びましたよ。

**PS 中高域の解像度はどうですか？**

**浅田** かなり情報量のあるスピーカー



Apple iMacを挟む形で「Output Platform」にセッティングされた「Epic 5」

です。プラグインのパラメーターを髪の毛1本分変えたのが凄くよく分かる。そういったほんのちょっとの差異が分からないスピーカーって多いじゃないですか。でも「Epic 5」は、コンプのかけ方で音の面積が変わったり、音が奥まったり、前に出たりとかがしっかり分かる。髪の毛1本分のツマミの変化が、しっかり聴き取れるんです。これだけローが出るスピーカーなのに、音の解像度も高いというのは、やっぱりドイツ人が作ったスピーカーだなという感じがしますね。「Epic 5」を使い始めてから、かなりアナログ機材を使うようになりましたよ。今まであまり好きではなかった「Neve」のクローンとかも使うようになりましたし。シンセも壁にずっと立てかけてあった「Prophet-5」を徐々にセッティングしたりして。ローやミッド・ローの音作りは、アナログ機材の方がやっぱりや

りやすいんだということを改めて認識しました。

**PS これまでいろいろなスピーカーを使ってこられたと思いますが、「あのスピーカーっばい」というのはあったりしますか？**

**浅田** うーん、なんだろう……。ローの感じや解像度は違いますが、イメージ的に一番近いのは「KRK」ですかね。「KRK」の音って曲を書くときにヤル気にさせてくれるじゃないですか。音が良くも盛り上がらないスピーカーって多いと思うんですけど、「Epic 5」は曲を書くときにヤル気にさせてくれるサウンドなんです。作業していて盛り上がるサウンドというか。

**PS 長時間作業したときの使用感はいかがですか？**

**浅田** 大きな音量で長時間聴いていると、どんなスピーカーでも疲れてしまうと思うんですけど、この「Epic 5」は

大音量ですつと作業していても全然疲れないですね。

**PS 一番気に入っているのは、やはり低域の出方ですか？**

**浅田** そうですね。単にスーパー・ローが出るだけでなく、低域の位相もしっかり分かるんです。例えばこの曲(ビリー・アイリッシュの『bury a friend』をかける)、低域が左右に広がっているんですが、キックはモノで、左右に広がっているのはベースなんだということが分かる。これが分からないとヤバいんですが、現実には分からないスピーカーの方が多いと思いますよ。今や40Hzや60Hzで何が起きているかがしっかり見えるスピーカーでないと本当にダメだと思います。

**PS 浅田さん周辺では、「Epic 5」の評判はいかがですか？**

**浅田** まだ知らない、聴いたことがないという人が多いと思うんですが、既にこのスタジオに3人くらい聴きにきましたよ。その中の1人はすぐに注文してしまいましたね。本当にこのスピーカーは、即買いするだけの魅力がある。だってペアで15万円ですよ。実際に音を聴いたら、皆んなその場で注文してしまうのではないかと思います。

**PS 本日はお忙しい中、ありがとうございました。**

reProducer Audio Epic 5
市場実勢価格:150,000円(ペア/税別)
問い合わせ:フックアップ
Tel:03-6240-1213
<a href="http://www.hookup.co.jp/">http://www.hookup.co.jp/</a>



浅田氏のプライベート・スタジオにセッティングされた「Epic 5」



「Epic 5」を導入してからは、アナログ機材の出番が増えたと語る浅田氏。「Epic 5」を使い始めて、ローやミッド・ローの音作りは、アナログ機材の方がやっぱりやりやすいんだということを改めて認識した(浅田氏・談)